

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	情報機器の操作 I	
担当教員の実務経験		
対象学生	保育児童福祉学科短大コース1年	
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	初心者を対象にインターネットでの情報収集、電子メールでの文書作成や、表計算での定量的な処理などを学び、演習を主体に学修していく。	
授業の到達目標	コンピュータの基礎、情報モラルを学び、コンピュータの基本的操作を身につける。文書作成、表計算ソフトを使うことで作業効率をアップできるようになることを目標とする。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	太田宗雄、他『コンピュータ入門』共立出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
「コンピュータとは何か、仕組み、基本的な操作、歴史等について」 コンピュータの発達の歴史・機能等について理解を深める。		1
「インターネットの歴史、サービスについて」 インターネットはどのようにして生まれたのか、インターネットを利用したさまざまなサービスについて理解を深める。		1
「コンピュータ・ネットワークを利用する上でのマナーについて」 情報の受信者、消費者ではなく、発信者としての心構えも身につける。		1
「著作権について」 文化庁のWeb 等を参照し著作権制度および著作権について最近の知識を身につける。		1
「ワープロソフトとは・基本的な利用方法」 ワードプロセッサソフトでは何ができるのか、ワードプロセッサソフトを用いるメリットについて理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。		1
「さまざまな機能を用いたレポート文書の作成」 ワープロソフトにはさまざまな機能が備わっている。これらの機能を実際の文章を作成しながら試してみる。		1
「表計算ソフトとは・基本的な利用方法」 表計算ソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。		1
「関数の利用」 表計算ソフトに備わっている関数の概念および、よく利用される関数を実際に試してみる。		1
「グラフの作成」 データをもとにしたグラフを作成する技術を身に付ける。		1
「データの処理、並べ替え、フィルタリングなど」 表計算ソフトに備わっているデータ処理機能について学ぶ。		1
「プレゼンテーションソフトとは・基本的な利用方法」 プレゼンテーションソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。		1
「プレゼンテーションをするにあたっての注意点」 資料作成の際に気をつけること、発表の際の注意事項について学ぶ。		1
「プレゼンテーション実習」 実際にプレゼンテーションを行い、課題を見つける。		1

「総合演習」 本演習で学んだ知識、演習で学んだことを再度見直す。	1
「総合演習」 本演習で利用したソフトウェアは、実生活においてどのように利用すると有効であるか考え、実際に導入してみる。	1
レポート作成、添削指導	15
計	30
授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	文章表現	
担当教員の実務経験		
対象学生	保育児童福祉学科短大コース1年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	通信教育では、レポートを書かための表現力が要求される。本科目では、レポート作成に必要な「書く」技術の基礎訓練を行う。したがって目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な表現法である。 文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現の適切さ・わかりやすさ、文書校正の明確さ、論理の一貫性などに重点を置いて学修していく。	
授業の到達目標	文学的表現や美文調の修辞等ではなく、簡潔で明快な表現法を習得し、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	古郡延治 『論文・レポートの文章作法』 有斐閣新書。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
レポートとは何かを知り、レポートの形式を理解する。 (ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第1課 この授業で何を学ぶかを知る・第2課 レポートの形式を知り、アイデアを練る)		1
レポートで必要とされる文章を知る。 (論文・レポートの文章作法 第1章 文章のよしあし)		1
レポートで求められる文章の構造を理解する。 (論文・レポートの文章作法 第2章 文を書く技術)		1
レポートの主題を設定する。 (論文・レポートの文章作法 第4章 文の作法)		1
レポートを設計する。 (ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第3課-1&2 練る)		1
情報を集める。 (ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第3課-3&4 調べる)		1
必要な情報を整理し、要約する。 (ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第4課 テーマを絞り込み、目標を設定する)		1
レポートにおける段落の役割と構造を知る。 (論文・レポートの文章作法 第3章 段落を書く技術)		1
レポートを組み立てる。 (ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第6課 組み立てを再検討する)		1
引用方法を知る。 (ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第9課 引用しながら書く)		1
ポイントを押さえてレポートを作成する。 (ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第8課 本文を書きこんでいく)		1
参考文献リストの書き方を理解する。 (ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第9課 引用しながら書く)		1
レポートの表記の方法を知る。 (論文・レポートの文章作法 第5章 表記の方法)		1
文章・表現・形式を点検する (ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第10課 文章・表現・形式を点検する)		1

レポートを自己評価する	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保育内容総論	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科短大コース1年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	保育内容の5つの領域(保育所は「養護」的内容が加わる)は保育実践では分断されて行われるものではない。具体的な生活や遊びの中では、それらが丸ごと含まれているので、実践の中で総合的に捉える視点をもてるようにし、保育を進めていけるように学ぶ。	
授業の到達目標	保育実践における5領域について理解を深め、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	関口はつ江、岸井慶子『実践理解のための保育内容総論』大学図書出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
「保育内容総論」とはなにか 教科書を読んで、科目全体の内容を確認をする。		1
第1章 保育の基本 保育とは何か、第1章を読解し内容を整理する。		1
第2章 保育内容の意味 第2章を読解し、保育内容5領域について確認し、整理する。		1
第3章 保育内容の変容とその背景 第3章を読解し、保育内容の歴史的な変容について整理する。		1
第4章 保育方法と保育内容 第4章を読解し、保育方法と内容の関係を整理する。		1
第5章 子どもの育ちをどのように見るか 第5 章を読解し、子どもの育ちについて考える。		1
第6章 3歳児未満児の保育内容と指導計画のポイント 第6章を読解し、内容を整理する。保育所保育指針も見ておく。また、保育指導計画のポイントを整理・確認する。		1
第7章 3・4・5歳児の保育内容と指導計画のポイント 第7章を読解し、内容を整理する。保育所保育指針も見ておく。第7章の指導計画のポイントを整理・確認しておく。		1
第8章 1・2歳児の保育の展開 第8章を読解し、1・2歳児の保育の展開についてポイントを確認しておく。		1
第9章 年少児の保育展開 第9章を読解し、年少児の保育展開を調べ、まとめる。		1
第10 章 年中児の保育の展開 第10 章を読解し、年中児の保育展開を調べ、まとめる。		1
第11 章 年長児の保育の展開 第11 章を読解し、年長児の保育展開を調べ、まとめる。		1

第12章 学校教育の基本としての保育第13章 現代社会と生きる力の基礎 教科書を読解し、各章の内容をまとめる。	1
第2回から第7回までのまとめ 第1章～第7章について確認・整理して保育内容総論のまとめを各自でする。	1
第8回から第13回までのまとめ 第7章～第12章について確認・整理して保育内容総論のまとめを各自でする。保育内容総論についてのノート整理をする。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	発達心理学Ⅰ	
担当教員の実務経験	臨床心理士として精神科病院等で実務経験有	
対象学生	保育児童福祉学科短大コース1年	
授業時間数・単位数	75 コマ	5 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	心の機能は、感覚・知覚・認知、社会性、気質・性格、感情などさまざまな側面を見せながら、人の一生を通じて変化していく。発達とは、個々に異なる様相をみせると同時に、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、壮年期、老年期などの各ライフステージにおける普遍的な特徴をもつ。 本科目では、発達概念および各ライフステージにおける心理及び行動の特長について学び、人間理解の基礎を培う。	
授業の到達目標	それぞれの時期における発達の特徴について理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	本郷一夫『シードブック保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』健帛社。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
子どもの発達を理解することの意義 教科書pp.1-9 を通読し、発達概念、発達を規定する要因、発達のメカニズムなどについて理解する。		1
子ども観と保育観の変遷 教科書pp.10-19 を通読し、子ども観や保育観の変遷、それに応じた制度の変化などについて理解する。		1
胎児期・新生児期の発達の特徴 教科書pp.20-29 を通読し、胎児期・新生児期の発達の特徴と問題点について理解する。		1
乳幼児期の発達の特徴 教科書pp.30-40 を通読し、乳幼児期の発達の特徴と問題点について理解する。特に初期経験の重要性について押さえておく。		1
児童期の発達の特徴 教科書pp.42-49 を通読し、児童期の発達の特徴と問題点について理解する。		1
青年期の発達の特徴 教科書pp.51-56 を通読し、青年期の発達の特徴と問題点について理解する。特に、エリクソンのアイデンティティ概念について押さえておく。		1
成人期の発達の特徴 教科書pp.56-58 を通読し、成人期の発達の特徴と問題点について理解する。現代の成人に特有の危機や、それが子どもに与える影響についても考えてみるとよい。		1
老年期の発達の特徴 教科書pp.58-60 を通読し、老年期の発達の特徴と問題点について理解する。老年期が発達段階の中に位置づけられているのはなぜかということも押さえておく。また、子どもと老人の理想的な関係などについても考えてみるとよい。		1
身体・運動の発達 教科書pp.61-71 を通読し、運動発達の分類や方向性、それぞれの発達段階の運動発達の様相などについて理解する。		1
認知の発達 教科書pp.73-81 を通読し、それぞれの発達段階の認知発達の様相などについて理解する。特にピアジェの発達理論を押さえておく。		1
言語の発達 教科書pp.83-92 を通読し、言語発達の様相について理解する。また、子どもの言語発達における養育者の役割について押さえておく。		1

感情の発達 教科書pp.93-102 を通読し、感情の発達の様相について理解する。また、感情の表出における問題点について押さえておく。	1
気質・性格の発達 教科書pp.103-111 を通読し、気質・性格の基本的理論について理解する。気質・性格の測定方法やその問題点についても押さえておく。	1
子どもの発達における今日的課題1 上記のテーマの中から、特にそれ以前の時代とは異なる、現代に生きる子どもの発達上の問題点について、具体的な事例を挙げながら考察してみること。たとえば、遊び場や自然環境など物理的な発達環境の変化など。	1
子どもの発達における今日的課題2 上記のテーマの中から、特にそれ以前の時代とは異なる、現代に生きる子どもの発達上の問題点について、具体的な事例を挙げながら考察してみること。たとえば、家族関係や養育観の変化など。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	幼児体育	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科短大コース1年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	保育士・幼稚園教諭は、子どもたちの運動遊びや身体表現の場において、言葉による指導・助言のみで頼るのではなく、保育者自身が視覚教材となり得るような動作やしぐさを身につけなければならないことを理解してほしい。したがって、身体運動に関する基本的な知識(幼児期に体得すべき基礎的動作・基本的運動を含む)の理解を深めるとともに、自身の運動能力を高めるためのプログラム、遊びの要素を取り入れながら幼児体育で取り扱う運動遊び・ゲーム・身体表現等に関する教材研究を行う必要がある。また、運動遊びにおける安全管理および安全教育に必要な知識を学修する。	
授業の到達目標	幼児期における運動の特性や効果について理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	井上勝子『すこやかな子どもの心と体を育む運動遊び』建帛社。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
幼児体育の意義について 幼児体育の必要性、スキヤムの発育曲線 現代社会におかれている子どもたちを取り巻く環境を理解し、また、スキヤムの発育曲線を理解することにより幼児期の遊びの必要性を確認する。		1
幼児期の運動遊びについて 特に昭和初期から戦後、現代社会の乳幼児の生活から児童期へ 歴史的な動向を深めるとともに、昔の遊びと現代の遊びの特徴を考える。また、遊びによって人間関係構築への影響にも検討する。		1
遊びの必要性について① 遊びが乳幼児へ与える影響、運動能力測定とその活用 昔の遊びと現代の遊びを検討しつつ、乳幼児への発育発達(走る・跳ぶ・投げる・バランス等)への影響を学ぶ。		1
遊びの必要性について② 固定遊具の遊び方を考える、幼児への影響、安全指導 固定遊具の特徴の理解を深め、遊び方を工夫してみる。また、子ども自ら危険を察知できるように指導方法を考える。		1
指導計画① 対象に合わせた指導案作成(体育的遊び) 年齢・障がいに合わせて指導案を作成する。注意する点は、子どもが楽しみながら行えるようにすること。また、無理はさせないように計画すること。		1
指導計画② 対象に合わせた指導案作成(マット・鉄棒・跳び箱遊びなど) 年齢・障がいに合わせて指導案を作成する。注意する点は、子どもが楽しみながら行えるようにすること。また、無理はさせないように計画すること。		1
模擬保育① 対象に合わせた指導案の実践 計画した指導案を実践する。ロールプレイングにより実施し、終了後、振り返りを行う。		1
模擬保育② 対象に合わせた指導案の実践 計画した指導案を実践する。ロールプレイングにより実施し、終了後、振り返りを行う。		1
乳幼児の安全教育 事故の実態と原因、安全管理、安全教育 園内・園外における事故について学修する。そして、事故を起こさないための方法を検討し、事故が起きてしまった後の対応についても検討する。		1

乳幼児の運動遊びの実践① 人と関わる・ 自然と関わる 乳幼児の運動遊びは、親・保育者・友だちとの関係で行われる。その中で自我がめざめたり社会性が育まれることを理解する。また、自然と触れ合うことの重要性も理解する。	1
乳幼児の運動遊びの実践② 物と関わる・ 遊具と関わる 乳幼児の運動遊びにおいて、砂・土などいろいろな物と関わりあひながら感性を育むことの大切さを理解する。また、遊具に触れながらその特徴と危険を回避できる能力を育てる点も重要である。	1
乳幼児の運動遊びの実践③ 素材と関 わる 乳幼児の運動遊びにおいて、新聞紙・粘土・折り紙などの素材を通して遊びを工夫させたり創造力や感性を育む方法を学ぶ。	1
表現遊び リズム遊び、音楽を使った遊び 乳幼児は音楽を聴くと自然と手足などリズムを取り始める。その音楽を使ってリズム遊びやリズム運動につなげ運動能力を高めたい。	1
創作リズム体操 創作・練習・発表会リハーサル・発表会 運動会・リズム発表会などで使用するリズム体操を創作し、発表する。リズム体操を創作する手順や動きを学修し、現場で実践できるように学修する。	1
学修内容の振り返りとこれからの幼児体育 子どもたちを取りまく現代において、子どもたちの将来、自ら考え、行動する能力を育むために、幼児体育を通して何ができるのか、また、どのように保育者が考えておかねばならないのかを検討する。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	児童家庭福祉	
担当教員の実務経験	社会福祉士、通所介護施設勤務経験有	
対象学生	保育児童福祉学科短大コース1年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	少子高齢化社会の進行、家庭や地域における子育て機能の変化など児童や家庭をめぐる環境が著しく変化するなかで、これからの児童・家庭福祉は、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められる。 このような児童・家庭福祉をめぐる環境の変化を踏まえて、児童福祉及び子ども家庭福祉の意義及び歴史的展開、法律、制度、福祉機関・施設の体系、母子保健、保育、児童虐待対策など子ども家庭にかかわる福祉・保健施策と子ども家庭への援助活動について学修する。表現を様々な角度から考え、一般的な知識を深めると同時に領域「表現」の考え方の基本について学び、保育の現場において領域「表現」を基本とする指導方法、子どもの援助活動を実際のように進めていったりよい理論、実践によって考察し、保育現場で実践できる力を身につける。また音楽、絵画、演劇、ダンスなどの表現方法についての基礎知識を深めながら、保育や福祉の現場等でこれらの表現を使った援助活動を実際のように進めていったり良いかを演習形式で学ぶ。	
授業の到達目標	子ども家庭福祉に関わる法制度や援助活動について理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	社会福祉士養成講座編集委員会 『社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
第1章「現代社会と子ども家庭」：子ども家庭福祉を取り巻く現状について、 <u>少子高齢化社会と次世代育成支援の視点</u> から学びます。さらに、 <u>子育てをめぐる現状、子どもの成長・発達の現状</u> について学修する。		1
第1章「現代社会と子ども家庭」：現代社会の <u>子どもの育ちと子育てに関するさまざまな福祉ニーズ</u> について取り上げ、それに対する支援の基本的視点について理解を深める。		1
第2章「子ども家庭福祉とは」：子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障について学びます。まず、「子ども」という存在の意味、「子ども」観などを通して、「子ども」の意義を理解する。		1
第2章「子ども家庭福祉とは」：次に、子ども家庭福祉の定義を学び、児童福祉を実践する上での <u>原理、理念</u> を学修する。さらに、今日に至るまでの <u>児童福祉の歴史</u> について理解を深める。		1
第3章「子ども家庭福祉にかかわる法制度」：児童福祉法をはじめとする <u>児童福祉六法</u> や「児童虐待の防止等に関する法律」など、子ども家庭福祉に深く関連する法律の概要を学ぶ。		1
第3章「子ども家庭福祉にかかわる法制度」：子ども家庭福祉行政の実施主体と主な実施機関、児童福祉施設など、子ども家庭福祉サービス体系、サービス利用の方法、財源などを学ぶ。また、専門職、苦情処理について学修する。		1
第4章「子ども家庭にかかわる福祉・保障」母子保健の目的、歩み、 <u>母子保健法</u> 、母子保健施策の現状、今後の課題等について学修する。		1
(障害・難病のある子どもと家庭への支援)障害児および家族の実情とニーズ、障害児の支援に関する制度、難病の子どもへの支援に関する制度について学修する。		1
(児童健全育成)：時代の流れを追いながら <u>児童健全育成施策の目的と内容</u> を学び、 <u>児童健全育成施策の現状</u> や今後の課題について学修する。		1
(保育)：保育の実施体制、保育の対象、保育制度の変遷など <u>保育制度の概要</u> について学修する。また、変化の激しい <u>保育施策の現状</u> について学ぶ。さらに、 <u>待機児童問題</u> など今後の課題について理解を深める。		1

(子育て支援):児童育成の責任と子育て支援に対する社会的支援について理解し、「エンゼルプラン」～子ども子育て応援プランまで、子育て支援施策の動向について学修する。	1
(ひとり親家庭の福祉、児童の社会的擁護サービス):母子家庭等自立支援策大綱の制定と関連法規の改正、ひとり親家庭の福祉施策の概要や近年の社会的擁護の考え方、社会的養護にかかわる機関・施設などについて学修する。	1
(非行児童・情緒障害児への支援):非行と情緒障害、非行の動向と非行についての理解、非行児童とその家族への支援に関する制度、情緒障害の内容とそれへの支援、情緒障害児とその家族への支援の課題などについて学修する。	1
(児童虐待対策、子ども家庭にかかわる女性福祉):児童虐待の定義、児童虐待の実態、子どもを虐待から保護する仕組み、児童虐待対策の課題、女性福祉の歴史的経緯と婦人保護事業、ドメスティック・バイオレンスの対応などについて学ぶ。	1
第5章「子どもと家庭への援助活動」:子ども家庭福祉の理念及び制度を踏まえながら、子ども家庭福祉分野における留意すべきソーシャルワーカー実践上のポイントを体系的に学修する。	1
レポート作成、添削指導	60
	計 75
	授業単位数 5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	音楽基礎Ⅰ	
担当教員の実務経験	ピアノ教室講師	
対象学生	保育児童福祉学科短大コース1年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	1. 本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識と音楽理論を学び、ピアノの技術を身につけ、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習をする。 なお、スクーリング修了試験では、ピアノ実技試験と音楽理論の試験を行う。 2. スクーリング修了試験「ピアノ実技試験」について ① ピアノ実技試験では、下記A群またはB群のいずれかを選択し、該当する課題曲すべて練習し、指定された1曲を演奏する。 ●A群(ピアノ初心者) 者) 『標準バイエルピアノ教則本』より ・35番 八長調 4/4拍子 ・37番 ト長調 3/4拍子 ・39番 ト長調 4/4拍子 ・46番 八長調 4/4拍子 ・49番 八長調 3/4拍子 ●B群(ピアノ経験者) 『標準バイエルピアノ教則本』より ・55番 八長調 4/4拍子 ・59番 八長調 3/8拍子 ・66番 八長調 6/8拍子 ・73番 八長調 4/4拍子 ・77番 八長調 3/4拍子 ② 音楽理論の試験は、筆記試験で行う。 (内容は授業計画に記載)	
授業の到達目標	基本的な音楽理論や保育現場における音楽活動について理解を深め、学習したことを実技で生かすことを目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	ピアノの自主練習	
使用教科書・教材・参考書	石橋裕子、他『新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。 楽譜：『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
○スクーリングにおける学修内容と科目終了試験について 本科目の概要を理解する。特に、2冊の教科書である『標準バイエルピアノ教則本』（以下、「バイエル」と略記）および『新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』（以下、「音楽表現」と略記）を活用しながら、理論と実技を体験的に学び終了試験に備える。		1
○バイエル35番、または55番 35番：開始位置に注意。拍子を意識して、4分音符の拍の刻みが揺れないよう気を付けて練習すること。 55番：右手をなめらかに、左手はそれを妨げないようにレガートに弾くこと。特に、4小節目左手の音域移行をスムーズに。		1
○バイエル37番、または59番 37番：開始位置に注意。3拍子の流れに乗って3拍目から1拍目に戻るときに間があいてしまわないように。 59番：左手の分散和音型伴奏形に慣れること。17小節目から左手のポジション移動と分散和音の変化に注意。		1
○バイエル39番、または66番 39番：37番と開始位置は同じ。特に左手がスムーズに弾けるようよく練習すること。最後の2小節は左右をしっかり揃えて。 66番：右手はスラーによるまとまりを意識してやわらかく、左手の分散和音は粒を揃えてなめらかに弾くこと。		1
○バイエル46番、または73番		1

46番:右手はなめらかに、4拍子が揺れないよう左手の4分音符をしっかりと刻むこと。8小節目右手のタイも拍がずれてしまわないよう注意すること。 73番:右手のミ・ド・シ・レ・という旋律が聴こえるように。7小節目の半音進行の指使いに注意。	
○バイエル49番、または77番 49番:左手の主要3和音の分散形による伴奏(ドミソ、シレソなど)を意識して練習するように。これらの伴奏形をしっかりと理解できるとその後の弾き歌いにおけるコードネームの理解へとつながっていく。 77番:3拍子をしっかりと意識して弾くこと。小節ごとに左右交互に出る8分音符が均一になるように。中間部の臨時記号にも注意。	1
○ピアノ個人レッスン ○音楽理論1「五線譜の読み方」*「音楽表現」pp.2-5 五線の線と間、音部記号と大譜表、小節・縦線・終止線、音名、変化記号、派生音について理解する。	1
○ピアノ個人レッスン ○音楽理論2「音符・休符、リズム・拍」*「音楽表現」pp.5-12 音符や休符の種類と名前と長さ、拍子と拍子記号、リズムについて、具体的な譜例を通して理解する。	1
○ピアノ個人レッスン ○音楽理論3「さまざまな用語と記号」*「音楽表現」pp.12-26 強弱記号、速度記号、発想記号、奏法上の記号、反復記号、音程について、具体的な譜例を通して理解する。	1
○ピアノ個人レッスン ○音楽理論4「音階と調」*「音楽表現」pp.26-29 長音階と短音階、長調と短調、調号、移調、転調について、実際に五線紙に書きながら理解する。	1
○簡単な伴奏での弾き歌い *「音楽表現」pp.58-61 「メーさんのつじ」 「ふんふんふん」の左手は全小節とも単音伴奏で、トマはノのみ。「ロンド橋」は重音伴奏。 「シングルベル」 「どんぐりころころ」 「大きな栗の木の下で」の左手は2小節ごとの同音型の繰り返し。右手は、いずれも旋律を弾く。前奏はいずれも最後の2または4小節を弾くとよい。ゆづりでもよいから弾き歌いに努めること。	1
○コードネームによる和音伴奏での弾き歌い *「音楽表現」pp.62-78 コードネームについて知り、「かえるの合唱」や「ちよちよ」 「きらきら星」などを、コードネームを見ながら和音や分散和音による伴奏型を工夫しながら弾き歌いに挑戦する。「むすんでひらいて」 「手をたたきましょう」 「チューリップ」 「なはださま」 「山の音楽家」 「線路は続くどこまでも」 などから好きな曲を選んで練習すること。	1
○レポート設題に向けて 設題にある「わらべうた及び明治期、大正期、昭和初期、戦後のそれぞれの時期に作曲された子どもの歌の中から1～2曲ずつを取り上げ、それらの歌の特徴について、歴史的背景に触れながら考える。	1
○スクーリング修了試験に向けて 「バイエル」のA群・B群の課題曲(5～6曲)の中からそれぞれ指定された1曲を練習すること。	1
○科目終了試験に向けて 音楽理論の筆記試験に向けてのまとめ。	1
	計 15
	授業単位数 1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	図画工作 I	
担当教員の実務経験	絵画教室主宰、絵画教室講師、芸術家	
対象学生	保育児童福祉学科短大コース1年	
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	造形教育を通しての教育は、子どもたちの創造性や個性・情操をバランスよく養うなど、望ましい人間的な資質の形成に深くかかわっている。本講義においては、造形教育の目的の理解と併せて保育内容(表現)や図画工作科の内容を理解し展開するために必要とされる多様な材料体験や造形表現体験を通して造形表現活動の経験を豊かにし、造形教育において必要な基本的な知識や技術を体験的に理解し習得する場とする。 また、本講義においては、多様な材料経験や造形における基礎的な実習等、指導者として求められる豊かな造形表現活動の体験に主眼をおく。	
授業の到達目標	造形の技法や活動方法について理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	花篤實、他『新造形表現 実技編』三晃書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
第1章 実技研修の構え		1
1 実技研修と幼児造形表現の指導 過去の作品制作体験を振り返ってみる		1
2 テキストを使つての実技体験 科目概要を念頭に置きながら、教科書を参考にしつつ興味のあることに取り組むこと。 ※スクーリングにおいても実技を行う。		1
第2章 実技研修の方法		1
1 材料経験『事例a～q(pp.18・34)』について興味のあることに取り組んでみよう。 ①様々な成果を記録し保管しておこう。		1
②「このようにしなければいけない」という決まりはないので、自分で工夫しながら楽しむことを大切にしよう。		1
2 造形遊び『事例a～k(pp.39・50)』について興味のあることに取り組んでみよう。 ①様々な成果を映像や写真も含め記録し保管しておこう。 ②「このようにしなければいけない」という決まりはないので、自分で工夫しながら楽しむことを大切にしよう。		1
③様々な環境の中でそれを生かし工夫しながら取り組むこと。		1
3 かく『事例a～l(pp.53・64)』について興味のあることに取り組んでみよう。 ①自身の絵描き経験に照らし合わせながら幼児の絵の理解してみよう。 ②自由にのびのびと楽しむことを大切にしながら取り組むこと。		1
③様々な成果を記録し保管しておこう		1
4 つくる『事例a～g(pp.66・82)』について興味のあることに取り組んでみよう。 ①様々な素材の特性を活かしながら自由に表現すること。 ②安全面に配慮すること。		1
③様々な成果や工夫点について写真や映像等も含め記録し保管しておこう。		1
第3章 総合活動と製作『事例a～k(pp.84・106)』について興味のあることに取り組んでみよう。 ①様々な素材の特性を活かしながら自由に表現すること。 ②安全面に配慮すること。		1
③様々な成果や工夫点について写真や映像等も含め記録し保管しておこう。		1

幼児教育に果たす幼児造形教育の役割について考えよう。 ポイント：幼児の心とからだ、感性にどのような影響を与えるか。大人の役割とは。	1
「造形遊び」における材料の果たす役割について考えよう。 ポイント：何を学び経験してもらうのか。材料から導き出されるものとは。	1
題材開発する場合の留意点について考えよう。 ポイント：何を学んでもらい、どのようなサポートを心がけるか。	1
レポート作成、添削指導	15
計	30
授業単位数	2